



NISMO Motorsports Communication Magazine **N-BLOOD** 2018 / JULY No.79 NISSAN MOTORSPORTS INTERNATIONAL CO.,LTD

N-BLOOD
NISMO Motorsports
Communication Magazine



N-BLOOD
NISMO Motorsports Communication Magazine
2018 / JULY
No. **79**

nismo

Produced by NISSAN MOTORSPORTS INTERNATIONAL CO.,LTD

強い心が引き寄せた勝利

彼らは、常に強い気持ちでサーキットにやってくる。

シーズン序盤の500kmレースを落としたいくないのは誰しも同じだが、

勝利を手にするのはたったひとつのチームに限られている。

猛ダッシュを見せたオープニングラップ。

セカンドスティントの執拗なまでのプッシュ。

そして、逆転からリードを広げた終盤。

どれをとっても、己を信じる強い心が引き寄せたものだ。

ドラマのキーを握るのは、常にその強い気持ちなのだ。

SAMPLE



SAMPLE



- 4 **INTERVIEW with TSUGIO MATSUDA**
松田次生 20 WINS!
- 8 **2018 SUPER GT SERIES - GT500 CLASS**
第1戦～第4戦 レースレポート
- 9 **NISMO AMBASSADOR COLUMN**
柳田真孝のアンバサダーという仕事について
- 10 **2018 SUPER GT SERIES - GT300 CLASS**
平中克幸「GT-R GT3で頂点を目指す」
- 12 **FUJI SUPER TEC 24h RACE**
新しいレースの楽しみ方を見発見
- 14 **2018 BLANCPAIN GT SERIES ASIA**
松田次生、ブランパンGTシリーズアジアを語る
- 16 **2018 BLANCPAIN GT SERIES**
欧州に挑む18年型GT-R GT3
- 18 **2018 IMSA WeatherTech SportsCar CHAMPIONSHIP**
ニッサンDPi、栄光のセブリングを制す
- 20 **2018 JAPANESE RALLY CHAMPIONSHIP**
JN1クラスでノートNISMO S 連続入賞
- 24 **The LEGENDS**
日産／ニスモで戦ったレジェンドたち
エリック・コマス／萩原修
- 28 **MOTORSPORTS**
Paddock TOPICS
- 30 **NISMO PRODUCT**
リーフNISMO／NISMO パーツ
- 32 **NISMO DRIVEING ACADEMY/WORKS TUNING**
愛車でサーキット走行を楽しみませんか？
- 34 **NISMO PARTNERS**
ジャトコ株式会社
- 35 **2018 NISSAN/NISMO RACE QUEEN**
2018年レースクイーン紹介
- 36 **Club NISMO EVENT**
ニスモ本社見学ツアー開催
- 38 **SUPPORTER'S PADDOCK**
ビットツアー参戦記
2018 NISMO FESTIVAL 開催日決定！
読者プレゼント

まずはGT500クラス20勝おめでとうございます。
感想を聞かせてください。

「最多勝記録は数年前に本山(哲)さんと立川(祐路)さんと並んで、そこから抜きつ抜かれつだったのですが、去年の最終戦で私が19勝目をあげました。こうなったら今シーズンの早いうちに20勝に到達したいなと思っていました。プロ野球などでもよくありますけれど、区切りになるところ、たとえば何千本安打を目の前にしてあと1本が届かないとかいう状況がありますよね。やはりどこか

意識して変な力が入ったり固くなったりするんじゃないか。そうならないように、早く節目に到達して次の目標を目指すようになればいいなと思っていました。そうしたら開幕2戦目で勝って20勝を達成できた。ある意味、あっけなく達成しちゃったなという気分でした。結構レースが接戦だったので、考えている余裕がなかったんですね。接戦じゃなかったら“何かトラブルが出たらどうしようかな”“失敗したらいやだな”とか考えがちですが、どちらかという追いかける立場だったので、とにかく前へ前へという気持ちで走ったこと

が良い方向へ働いてくれたのかなと。レースが終わったときには記録より勝ったことへの喜びの方が強くて、記者会見で20勝のことを聞かれて“そうか、20勝だったんだ”と気づいたというのが正直なところです」

松田選手はレーシングスクール時代から国内トップカテゴリーへ進出するまで他メーカーのドライバーでしたが2006年に日産へ移籍。そのときの経緯を教えてください。

「確か05年のフォーミュラ・ニッポン最終戦で

松田次生 20 Wins!

「技術的にも体力的にも伸びしろがある。次は30勝を目標にしたい」

2018年SUPER GT第2戦富士で、松田次生はロニー・クインタレッリとともに今季初優勝を遂げ、自身のGT 500クラス通算勝利数を20勝へ伸ばして歴代最多勝記録を更新した。2001年シリーズ第5戦で初優勝を遂げて以来18シーズン目、日産陣営に加入してからは13シーズン目。大記録を打ち立てた今、松田次生は何を想っているのだろうか。

Text by Makoto Ogushi Photographs by Yasuhiro Oshima,NISMO

Tsugio Matsuda

INTERVIEW



SAMPLE

ポールポジションを獲ったとき、星野一義さんから電話があって、星野さんのチームでやらないか、と誘われたんです。ちょうど井出有治さんがF1に参戦するという話があった時期で、井出さんの後任を探しているという話でした。当時の僕は、GTでは中嶋悟さんのチームに所属していましたが、“フォーミュラで勝ちたい”、“チャンピオンを獲りたい”という気持ちが強かった。でも翌年のフォーミュラに関しては中嶋さんのチームではなく中堅どころのチームで走らなければならないということがほぼ決まっていた。だから“中嶋さんのチームでフォーミュラに乗れるなら残ります”と言いました。でもそれはできなかったので『だったら、残念ですが私はフォーミュラで勝ちたいので移籍します』と言ってチームを離れました。フォーミュラで勝ちたい、そしてチャンピオンを獲りたいという気持ちが強くて、申し訳ない面もありましたが、新たなチャレンジをする決意をしました」

日産への移籍は、感情も絡みがちで難しい決断だったと思うのですが、いかがでしたか？

「レーシングスクールから育ててもらってきたのに移籍することで裏切る結果になってしまいますから葛藤しました。情が出てしまったり『レースは情に流されてもいいけない』と思い直したり、2ヶ月は悩みました。でもそこは決断しなければならなかったんです。移籍すればそれでいい、という話でもなくて、それまで守られていた場所から離れて、新しいチャレンジを始めるのですからそこで結果を出さなければ1年、2年で終わってしまってもおかしくありません。とはいえ、今までの体制に残っても、欲しいタイトルが獲れなければ意味はありません。それに、F3から05年まで同じチームでやってきて自分の中に“ずっとそこにいればなんとかなるかも”と、甘えが生じていたようにも思えたのです。やはり、自身に大きなプレッシャーをかけてさらに結果を出すためには環境を変える必要がありました。大きな決断でした。実は、02年にも柿元(邦彦)さんから日産に来ないかと声がかかりましたが、そのときはまだ22歳で、情が先に立って決断ができなかったんです。でも05年はもう25歳を過ぎる頃で、人生の転換期に結果を出さなければならないと思えたんです。星野さんが間に入って中嶋さんと話をしてくれたりもして、なんとかいい形で移籍が実現しました」

移籍したNISMOを、チームとしてどう感じましたか？

「1年目にNISMOの23号車に乗せてもらいました。やっぱりそれまでいた環境とは全然違いました。当時、すでに日産のエースだった本山(哲)さんと一緒に車両開発から何からやらせてもらいましたが、ワークスの開発スピードや関わっている人の多さなど、それまでと全く違い、当初は名前も全然覚えきれないほど。でもやってみたいと思っていた仕事なので素晴らしい環境でした。一方、



ドライバーとしての速い遅いをはっきり評価されるので厳しい環境でもありました。本山さんからは、開発する上で妥協してはいけない、という姿勢を学びました。場合によってはスタッフなどに対して厳しい言い方をしなくてはいけないこともあるけど、自分がこの先車両を開発する上でどう振る舞うべきなのか、今の自分に足りないことは何なのかといういろいろ勉強させてもらいました」

クルマの違いはどう感じましたか？

「移籍して初めて乗ったZは、それまでとは違うクルマでした。05年まで乗っていたのはミッドシップのコーナリングマシンで、カーボンで覆われているようなレーシングカーでしたが、ZはFRで、どちらかというと金属むき出しのチューニングカーのようで、見た目も乗り味も全然違いました。最初、セバンテストで乗ったときには戸惑いばかりで、これでやっていけるのかなと心配になるほど。これは乗り方、ドライビングスタイルを相当変えていかないとうまくいかないぞ、と覚悟しました。ただ、

テスト期間が多く取れたので、いろいろアジャストをすることができました。その過程では大きなクラッシュもしました。岡山のテストでしたが、ミッドシップなら曲がってくるところ、FRなので曲がってくれなくてアンダーが出て、そのままクラッシュしてしまったんです。少し焦りましたが、次で頑張ろうと気持ちを入れ替えることができました」

日産へ移籍して良かったと思えましたか？

「移籍1年目は速さを見せなくちゃ、と開幕戦ではかなり意識して走りました。何台かオーバーテイクもできて、いいアピールができたレースだったと思います。最終的には第8戦のオートボリスで予選3位から私がスタートして、日産入りして初めての優勝をすることができました。そこまで優勝がなくてずっと2位、2位と来ていたので、第8戦の勝利には大きな意味がありました。自分でもいい仕事ができたと考えました。このシーズンには、フォーミュラ・ニッポンでも6年ぶりに勝てたしGTでも2年ぶりに勝つことができ、翌年には



Tsugio Matsuda

INTERVIEW

フォーミュラでチャンピオンを獲得することができました。目標をすべて達成したわけではないけれど移籍して良かった、と思えました。ただ、肝心のGTではチャンピオンを獲れそうで獲れないということが14年まで続くんですけどね」

08年からはTEAM IMPULに移っています。IMPUL時代はどんな時代でしたか？

「フォーミュラはIMPULで戦っていたので、その流れもありGTもIMPULから出ることになりました。GTのマシンは、星野さんが勝ちまくっていたグループA時代を思わせるカルソニックカラーでした。小学校の頃、テレビでレースを観ていましたが、星野さんが乗る青いGT-Rは私にとって憧れの一台でした。テレビの中で走っていたあのマシンに今度は自分が乗ってレースをするんだと思うと、何か運命的なものを感じました。しかもGT-RがSUPER GTに復活して乗れるのだと思うと特別な気分でした。というのも03年、スカイラインGT-R最後の年は他メーカーのマシンに乗って、GT-Rはライバルでしたけど“格好良いなあ、なんて速いんだ、あれは無敵のマシンだな”と思っていたんです。一方で、日産に移籍して3年目、NISMOからサテライトチームという位置付けのTEAM IMPULへ移ったこともあって、自分がチームを引っ張っていかなくちゃいけない立場になったという気持ちでした。SUPER GTはレベルが高くマシンのセットアップをしっかりとしないと

いい成績は残せないで勉強もしましたし、それは今にもつながっているんだと思います。いろいろと大変なことはありましたが、星野さんも協力してくれて、初年度に2勝することもできました。2013年にはタイトルを惜しいところで獲れなかったのが残念です。星野さんのチームで1回でもいいからタイトルを獲りたいと思っていましたから」

14年に、TEAM IMPULから再びNISMOへ復帰して現在に至っているわけですが、復帰したときにはどんな心境でしたか？

「IMPULで一段階大きく成長させてもらって、14年からNISMOに戻って、より結果を求められる立場になったわけですからプレッシャーも大きかったです。でもロニーと組むからには絶対にチャンピオンは獲りたいと思っていました。ロニーとは2010年にIMPULで初めて組みました。その年は、当初うまく役割分担ができずになかなか結果がついてこなかったのですが、第4戦のセパンから僕がスタートとアタックを担当して勝って、そこから少しずつ良い流れになりました。11年にはパートナーが変わってしまい、残念に思ったものです。ロニーは大人なので、僕がやると言えばそれを聞いてくれたし、絶対にミスしないので、いつかまたロニーと組みたいなと思っていました。だから再びロニーと組んだ14年に、チャンピオンが獲れて本当に良かった。そこから安定して1シーズン

には2回ずつ勝っています。これだけ安定して上位に居続けられるのは相性がいいからなんだろうなと思います」

通算20勝はGT500クラス歴代最多勝記録です。レーシングドライバーとしてこの戦果は到達点なのでしょうか？

「これが到達点だとは思っていません。実は、IMPULで走っていた頃、若干目標を見失ったところがありました。20代の後半にフォーミュラ・ニッポンのチャンピオンを2年連続して獲得した際、これで夢だったF1にチャレンジできるのではと思っていたんです。でも結局そういう話はありませんでした。それで、次は何をやればいいのかと、腐りかけたというわけではないけれど、目標を見失いかけた。でも30歳を過ぎた頃、タイトルを獲っていないSUPER GTでタイトルを獲ろう、と気持ちを入れ替えました。そして14年からNISMOに戻ってロニーと組んで意識改革をふたりでやってみると、意外とまだ自分には“伸びしろ”があるんだと気づいたんです。年齢を重ねて、まさかこんな気持ちになるとは思ってもいませんでした。それで、自分を見つめ直して身体も絞り、もう一段階高いレベルに持ってこられました。そして今、20勝は到達点ではなくて通過点だと思えるようになったんです」

“伸びしろ”とは具体的にどういうことですか？

「最も感じるのはフィジカルの部分ですね。昔は筋トレをがむしゃらにしたものでした。そうしていれば何か安心してレースに臨める、という気分でした。でも今は、どこにピークを持っていくかを含めて、もっと科学的なアプローチでトレーニングをしています。最近のスポーツ選手はみんなそうですよね。だから野球でもサッカーでもみんな40歳を超えても第一線で活躍できるようになったんです。逆にそこから伸びていく人もいます。20代の頃と同じトレーニングをしていたら、40歳近い僕は身体がボロボロになってしまいますよ。でも科学的にうまく分析すれば身体能力をまだまだ伸ばしていくことができるんです。それに加えて、レースに関する“引き出し”が増えてきたので、それを活用できるようになりました。“引き出し”は、主に経験ですね。マシンを作っていく上での経験、コンディションに対応するための経験。それに加えて自分のクルマでスポーツ走行だったりドリフトだったり腕を磨いていく。そういうことを全部うまくリンクさせればもっと上に行けると思っているし、自分のパフォーマンスがまだまだ伸びているように感じます。」

今よりさらにパフォーマンスを増していくレーシングドライバー松田次生にとって、次の目標はどのようなものなのでしょうか？

「今の環境は充実していてチャンピオンは獲れて当たり前前の状態になっていると言って良いでしょう。」

それがプレッシャーにもなりますが、やりがいも感じています。今シーズンはまず、3度目のタイトルを目指します。歴代最多王者記録にまずは並んで……と言っても最多王者記録保持者はロニーですが……、25勝、30勝を目指したいですね。30勝するためにはあと10年くらいかかるかもしれませんけど(笑)。

また、GT500だけでなく、GT3でもレースをしたいと思っています。僕は昔から海外のレースに興味があって、以前にもル・マン24時間レースへ挑戦するなどしてきましたが、そういう国際大会でも勝って名前を残したいという気持ちが出てきました。たとえばブランパンGTシリーズアジアや、鈴鹿10時間レースにも挑戦したい。その他デイトナ24時間レースやニュルブルクリンク24時間レースなど、GT3で出られるレースがいろいろあるので、自分の活躍の場を日本だけでなく海外へ広げていきたいです。今年もすでに海外で2戦ほど出場していて、自分なりにいい走りができたと思っているので、自信もついたように思います。この年齢になって、まだまだ挑戦したいレースがあるなあと思うようになったんですよ。そのためにはずっとトップドライバーであり続けなければいけない。トップで戦っているからこそ、様々なレースに出場できるオファーをいただけるわけですから。今後も継続的にチャレンジできるといいかなと思っています。でもまずは国内で、GTの節目となる25勝を目指します」



松田次生 GT500 20勝への足跡

2000

TEAM TAKE ONE / マクラーレン・F1GTR で
GT500 デビュー

2001

ホンダに移籍

NAKAJIMA RACING/NSX

🏆 第5戦 もてぎ 優勝 / GT500 クラス初勝利

2002

NAKAJIMA RACING/NSX

🏆 第1戦 岡山 優勝

🏆 第4戦 セパン 優勝

🏆 第8戦 鈴鹿 優勝

2004

NAKAJIMA RACING/NSX

🏆 第5戦 もてぎ 優勝

2005

NAKAJIMA RACING/NSX

2006

日産に移籍

NISMO/XANAVI NISMO Z

🏆 第8戦 オートポリス 優勝

総合6位

2007

NISMO/XANAVI NISMO Z

総合5位

2008

TEAM IMPUL / カルソニックインパル GT-R

🏆 第6戦 鈴鹿 優勝

🏆 第9戦 富士 優勝

総合5位

2009

TEAM IMPUL / カルソニックインパル GT-R

総合11位

2010

TEAM IMPUL / カルソニックインパル GT-R

🏆 第4戦 セパン 優勝

総合5位

2011

TEAM IMPUL / カルソニックインパル GT-R

🏆 第1戦 岡山 優勝

総合5位

2012

TEAM IMPUL / カルソニックインパル GT-R

🏆 第6戦 富士 優勝

総合4位

2013

TEAM IMPUL / カルソニックインパル GT-R

🏆 第3戦 セパン 優勝

総合9位

2014

NISMO / MOTUL AUTECH GT-R

🏆 第3戦 オートポリス 優勝

🏆 第8戦 もてぎ 優勝

シリーズチャンピオン獲得

2015

NISMO / MOTUL AUTECH GT-R

🏆 第2戦 富士 優勝

🏆 第7戦 オートポリス 優勝

シリーズチャンピオン獲得 (2年連続)

2016

NISMO / MOTUL AUTECH GT-R

🏆 第1戦 岡山 優勝

🏆 第2戦 富士 優勝

総合3位

2017

NISMO / MOTUL AUTECH GT-R

🏆 第8戦 もてぎ 優勝

総合2位

2018

NISMO / MOTUL AUTECH GT-R

🏆 第2戦 富士 優勝

総合3位 (第4戦終了時点)

